



「多久から発信！SDGs⑧」

6月18日(土)に、令和4年度「多久市青少年育成市民大会」が中央公民館で開催されました。この大会では「みんなが伸ばそう！「ふるさと・多久」の子ども宣言」が採択されました。地域の見守り、大人の協力によって子どもたちの健やかな成長を支えていこうとする取組みはとても大切です。

この日は、第41回「多久市少年の主張発表会」も続けて開催されました。市内3校の6年生と9年生の代表が、自分の将来のことや社会問題、身近な疑問などをテーマに、堂々と発表しました。

今回の発表会で特徴的だったことは「持続可能な…」という言葉が多く用いられていたことです。

「よりよい自分になりたい」「素敵な多久市や未来を創っていきたい」という思いを達成するためにSDGsに関し、率先して行動していこうとする姿勢は、とても頼もしく見えました。「一過性の取り組みではない」という子どもたちの思いを、私たち大人が真摯に受け止め、この多久市で広げていきたいものです。

また、優秀賞に輝いた発表に「挨拶」をテーマにしたものがありました。挨拶は人と人との架け橋であり、心を繋ぎます。子どもだけでなく大人も「挨拶」を続けていくことで、素敵で住みよい多久市を創っていきましょう。



連載

野の仏ギャラリー 38

観世音菩薩坐像

西多久町圓通寺

丸彫りの坐像で、入念な蓮華台があります。頭上には蓮弁に円文を載せた宝冠があり、髪を高く結び上げ、布で覆っています。額に白毫があり、手は、左手の上に右手を載せ禅定印としています。観世音菩薩は民衆を広く救済するため、変化し六観音や三十三観音などの分身を生み出しました。銘文により、早く亡くなった娘のために、供養塔が建立されたと分かります。

銘「夏雲晴心禅童女」多久内蔵介藤原安□女菊千代  
「正徳四甲午天六月十八日早世」



- 菩薩は、本来悟りを開く前の修行中の者を称します。
- 丸彫りは、石から像を彫り出すことです。
- 禅定印は、瞑想に入っている状態です。
- 銘の正徳四甲午天は、西暦1714年です。
- は、読むことのできない文字です。

多久市郷土資料館長 藤井伸幸

市民文芸

◆石仏探訪 草の根友好と共に帰化し  
添乗員 越勇さんあり  
尾形 節子

◆ありがとう 無限の知恵が溢れ出し  
念願だった夢を叶える  
野崎 隆幸

◆青空を流れ流れて 白雲の  
戦うキークウの上空ゆくか  
浦野 嘉恵

◆掘りたての竹の子抱え友の家  
満開のバラと友の笑顔よ  
梶原恵美子

◆五月空 晴れ渡りたる朝にして  
近き暑さをふと思ひおり  
川浪 信子

◆代掻くや 水の匂ひを 風に乗せ  
中嶋 清子

◆シャンパンで 祝ふ退院 風五月  
富樫 明美

◆絵手書に 吾の近状 いちご 描く  
本村 則子

◆無縁墓 覆ってあたり 夏薊  
おおやはな  
武富 律子

◆山若葉 逆さに写つす だまの面  
松下一 修

◆にわか雨 虹を残して 去って行き  
儀仗兵  
中尾 和弘

◆行進や 一糸乱れぬ  
糸電話今はスマホの 三歳児  
大谷 和

◆キッチンも 戦火の飛び火  
物価高  
高塚チカ子

◆犬相手 互いに歳を重ねて  
田代えみこ